令和５年度　えだまめ栽培指針・移植栽培(7/上～下収穫作型)

上越農業普及指導センター

＜栽培のポイント＞
○作付け前の排水対策を徹底
○初生葉が半開き程度の若苗定植
○４月定植では、定植後の保温で初期生育を確保
○開花期後の追肥の実施
○病害虫（フタスジヒメハムシ・炭そ病等）・雑草防除

＜品種・作型 (例) ＞

品種	は種～収穫日数	は種期	定植期	開花期	収穫期
味風香	85 日程度	4/10 ～4/25	4/24～5/9	6/3 ～ 6/12	7/9 ～7/19
新潟系 14 号	85 日程度	4/20 ～4/30	5/4～5/14	6/8 ～ 6/16	7/17～7/23
湯あがり娘	90 日程度	4/10 ～4/25	4/24～5/9	6/8 ～ 6/16	7/17～7/25

令和５年３月改定

時　期	4月			5月			6月			7月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作　型	○ ―― △ ―― ☆ ―― □											
	○ は種 △ 定植 ☆ 開花 □ 収穫			○ ―― △ ―― ☆ ―― □								
主要作業 味風香の例 （４月中旬は種）	○ 4/15 は種		△ 4/29 定植				☆ 6/6 開花・追肥①		追肥②	□ 7/13 収穫		

管理方法

1　育　苗

（1）育苗様式

・雨よけハウスを利用し、４月は種の場合は発芽をそろえるために、温床または、水稲出芽器を利用する。
・セルトレイは 128 穴または 200 穴が標準、排水性の良い育苗箱を選択し、地面から浮かせて育苗する。
・市販培土を使用する。セルトレイに押し込めすぎると、根上がりや発芽不良となるので注意する。

（2）は種･･･培土の乾湿調整がポイント

・は種直前直後のかん水は、種子の発芽率が低下するので厳禁！！

＜は種方法①＞　「充填・**は種**」→「３日程度後」→「かん水」
・培土をトレイに充填後、無かん水では種・覆土を行い３日間室内に放置する。トレイは重ねて置き、乾燥しないようにビニールで被覆する。
→種子が培土内でゆっくり吸水し、適正な吸水量となる。point
・４日目にトレイをハウスに移動し、箱当たり１Ｌかん水する。
・乾燥防止に新聞紙等をべたがけする。

＜は種方法②＞　「充填・かん水」→「３日程度後」→「**は種**」
・培土をトレイに充填後、十分にかん水し、遮光した状態で保管する。
→３日間程度で、は種時の適正水分となる。
・は種を行い、覆土は１㎝程度。乾燥防止に新聞紙等をべたがけする。（覆土後のかん水はしない）point

＜は種方法③＞「水稲出芽器利用」　※は種方法②の発展版
・トレイに培土を詰めた後、しっかりとかん水し、2～3 日程度静置して、余分な水分を抜く。
・は種する。は種後はかん水せず、水稲出芽器にいれる。point
（温度 28℃設定）
・２晩（48 時間）保温
・3 日目に出庫し、ハウスに並べる。（芽が少し動き出している程度が目安）。並べた後は、慣行法と同様にかん水管理を行う。

（3）育苗管理

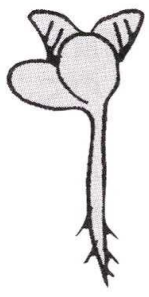
・発芽が３～４割始まったら、すぐに新聞紙を除覆する。遅れると徒長苗になる。
・除覆後、種皮が子葉から取れやすくするため、軽く表面が湿る程度にかん水する。
＜温度管理＞

生育ステージ	気温	地温
発芽まで	25～28℃	25℃
発芽後	20～25℃	20～15℃

・発芽後は気温 25℃以上、地温 10℃以下にしない。
・育苗期間中のかん水は、朝１回程度とし、かん水を控えめとして、しっかりした苗を作る。

（4）適期定植

・定植苗の適期は、初生葉が半開きの頃である。
・育苗期間で 12～18 日程度であるが、日数ではなく、苗姿で判断すること。point
・定植遅れは生育停滞を招き収量減につながる。


定植時苗姿

2　定　植

（1）ほ場の準備･･･地温 15℃以上確保がポイント

・周囲に明きょを設置する等の排水対策を行う。
・できるだけ砕土率を高め、ていねいに整地うね立てを行う。
・地温確保のため、施肥耕耘後のマルチは定植５日前にはかけておく。

（2）施肥例

＜基肥例１（kg／10ａ）＞

	施用量	N	P	K
Ｇライム 72	120	―	―	―
ＢＭ畑作３号	100	12.0	11.0	12.0

＜基肥例２（kg／10ａ）＞　一発基肥利用の場合

	施用量	N	P	K
Ｇライム 72	120	―	―	―
早生えだまめ配合 528	100	15.0	12.0	18.0

※早生系品種の収量増加には、初期生育を確保する必要があるため、基肥は多めの方が良い。
※湯あがり娘は草勢が強くなりやすいため、基肥は２割程度減らす。

（3）栽植密度

品種	畦幅	株間	条数	粒数	株数/10a
味風香	120 ㎝	20 cm	２条	１粒	8,333 株
新潟系 14 号	80 cm	20 cm	１条	１粒	6,250 株
湯あがり娘	80 cm	20～25 ㎝	１条	１粒	6,250～5,000 株

（4）保温対策

・低温期の定植では、寒風や霜害を防ぐため、トンネルまたはべたがけ資材を被覆し、初期生育の促進を図る。除覆は、本葉５枚頃、または5月下旬の天候の穏やかな日を選んで行う。

3　栽培管理

（1）追肥（10ａ当たり）･･･新潟系 14 号、湯あがり娘

回数	時期	施肥量	目的
1	開花始め	ＮＫ化成 E989 25kg	莢数確保
2	莢肥大期・収穫 10 日前	ＮＫ化成 E989 25kg	莢肥大・食味

※一発基肥利用の場合は不要。
※味風香の場合、必要に応じて追肥を実施する。

（2）かん水

・開花期前後及び莢肥大期の土壌水分不足は、着莢、莢肥大に影響が大きいので、必要に応じて過湿には注意しながら通路かん水する。

（3）食味向上対策

☆開花期以降、防除時に液肥の葉面散布を２回以上実施する。

4　主な病害虫･･･品質・収量を維持

○フタスジヒメハムシ
年２回（２世代）発生する。
１回目：５／上～６／上
２回目：８／中～８／下
第１世代は畑や畦畔の雑草で成虫越冬し、産卵は根の付近の土中で、幼虫は根粒に入り根粒を餌にして育つ。
５月下旬から成虫が出現し、葉を丸く穴を開けて食害する。
開花後は成虫が莢の表面を食害する。

○ツメクサガ
年２回発生し、幼虫が葉や若莢を食害する。
１回目：６／中～７／上
早生～中生品種の葉の食害は主に本種によるものである。
シャクトリ状に動き葉巻を作らないので、ウコンノメイガと見分けられる。
○炭そ病
莢にシミやカビが発生し、品質を著しく低下させる。系 14 号は特に注意。
※防除についてはＪＡえちご上越作成のえだまめ防暦を参照。
☆開花期以降、防除時に液肥の葉面散布を２回以上実施する。（再掲）

5　収　穫

・莢厚が９～10 ㎜になったら収穫を開始する。
・収穫は朝（９時前）か夕方（16 時以降）の涼しい時間帯に行う。脱莢後はできるだけ品温を上げないよう留意する。